

小牧市在宅医療・介護連携推進事業 ～平成30年度実績報告～

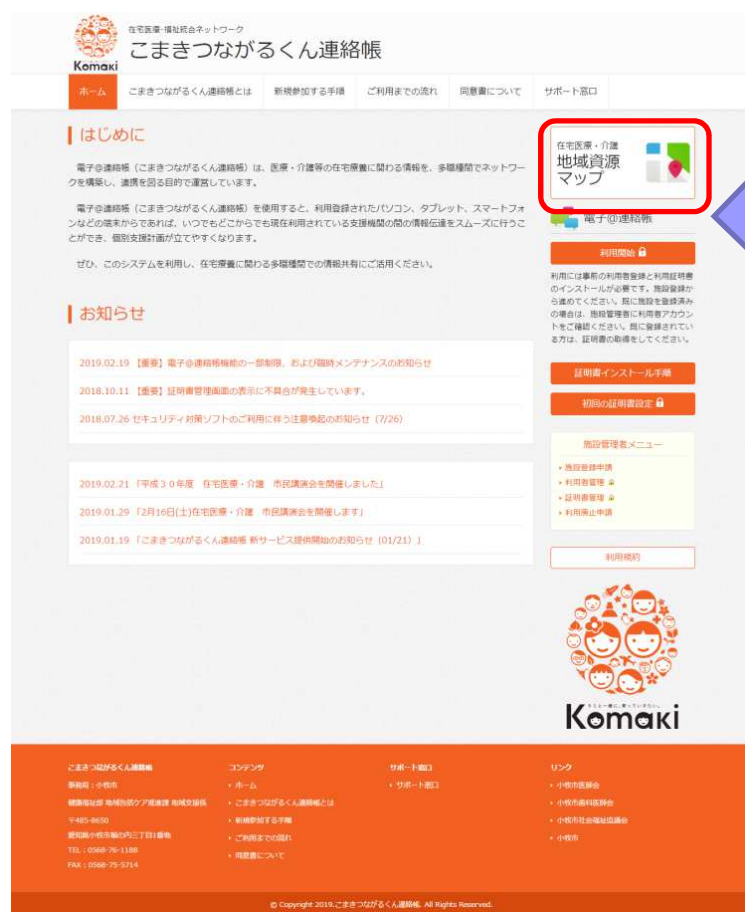
平成31年3月28日(木)

小牧市 健康福祉部 地域包括ケア推進課
小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

① 医療・介護マップの作成・公開

- ・平成31年1月、電子@連絡帳の運営事業者の移行にあわせて、医療・介護マップを作成・公開（登録率30.1%）





(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

②在宅医療・介護連携に関するアンケート調査

- ・市内に居住する満40歳以上の男女2,000名を対象に調査実施。
- ・在宅医療・介護連携推進事業の取組みの基礎資料や医療・介護関係者に情報提供。
- ・自由意見として、多く寄せられた意見について、在宅医療・介護市民講演会のパネルディスカッションのテーマとして取り扱う。

視点1：かかりつけ医

- ・3割弱がかかりつけ医を持っていない
- ⇒ ターゲットを絞った情報提供が必要。

視点2：在宅医療・在宅介護

- ・在宅医療を知っているが、小牧市の取り組みを知る人が少ない
- ⇒ 小牧市内の現状について、市民理解を深めることが必要。



(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

②在宅医療・介護連携に関するアンケート調査

視点3：相談・情報提供

- ・相談先が、「親族」（60.6%）、「医師・歯科医師・看護師」（33.1%）の順。
 - ・『相談していない』という方が2割弱。
- ⇒ 公共機関の相談窓口が分からないとの意見も多いことから、相談先である在宅医療・介護連携サポートセンターや地域包括支援センターの認知度を高める取り組みが必要。

視点4：わた史ノート

- ・「わた史ノートを知っている」は、前回調査より、6.4%増加し、3割弱となり、徐々に広がっている。
 - ・終末期について、深く考えたことがない市民が4割弱と多い。
- ⇒ わた史ノートの周知・活用に向けた出前講座などを通じ、終末期について考え、自分らしく生きていくための支援が必要。



(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

②在宅医療・介護連携に関するアンケート調査

○主な自由意見

・在宅では病状が急変した時の対応が遅れるというイメージがある。
・在宅のサービスは紹介されるものなのか、自分で探しておくものなのか どういう流れで進んでいくのか知りたい。
・在宅医療・介護のシステム、スタッフ、料金の現状や将来の計画について 具体的なことを知りたい。
・在宅と入院した場合の比較について知りたい。
・在宅医療の方が良いのか判断できる情報がほしい (在宅の良い点、病院の良い点の比較など)
・夫婦で入れる老人ホームなどがもっとたくさんあれば良いと思う。
・老老介護を見ていると悲しくなる。支援の充実を切に願う。
・もっと身近に認知症や介護などについて基礎的な知識を得られるような 気軽に足を運べる窓口がほしい。
・「こんな時どうする？」或いは「地域包括支援センターの業務内容がわかる」 パンフレットや情報ツールがほしい。
・リハビリや自立支援が続けられる情報がほしい。

(イ) 在宅医療・介護連携の課題抽出と対応策の検討

① 在宅医療・介護連携推進協議会

・平成30年度は、3回開催

平成30年度の開催状況	
第1回 H30.7.12	①これまでの課題の進捗状況について ②今後のこまきつながるくん連絡帳の運用について ③第7次小牧市高齢者保健福祉計画における在宅医療と介護の連携等について
第2回 H30.11.22	①これまでの課題の進捗状況について ②平成31年度の事業計画案について
第3回 H31.3.28	①平成30年度の事業報告について ②平成31年度の事業計画について



【委員19名】

小牧市医師会・小牧市歯科医師会・小牧市薬剤師会
小牧市民病院・小牧第一病院・小牧市社会福祉協議会
小牧市介護支援専門員連絡協議会・小牧市介護保険サービス事業者連絡会
小牧市リハビリテーション連絡会・愛知県春日井保健所・市
小牧市地域包括支援センター・小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター



(イ) 在宅医療・介護連携の課題抽出と対応策の検討

①在宅医療・介護連携サポートセンター会議

・毎月第3木曜日に開催

【目的】

- サポートセンター事業（相談・支援）の共有
- 研修会・勉強会の企画、開催
- 多職種の関係機関の事業の把握
- その他、在宅医療・介護連携サポートセンター事業に関することの協議

【メンバー15名】

小牧市医師会・小牧市歯科医師会・小牧市薬剤師会
小牧市民病院・小牧第一病院・小牧市社会福祉協議会
小牧市介護支援専門員連絡協議会・小牧市リハビリテーション連絡会
小牧市介護保険サービス事業者連絡会（訪問看護部会）・愛知県春日井保健所
市・小牧市地域包括支援センター



(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築

①連携シートの活用

- ・平成30年4月から平成31年2月までの11ヶ月の実績
小牧市民病院：171件
小牧第一病院：50件

②副科紹介ツールの活用

- ・副科（耳鼻咽喉科、眼科）の紹介マニュアルを作成
- ・平成30年度は、対象副科の拡大に向けて、精神科でツールを活用

③在宅患者訪問薬剤管理指導手順の活用

- ・在宅患者に対する訪問薬剤管理指導の依頼手順を整理

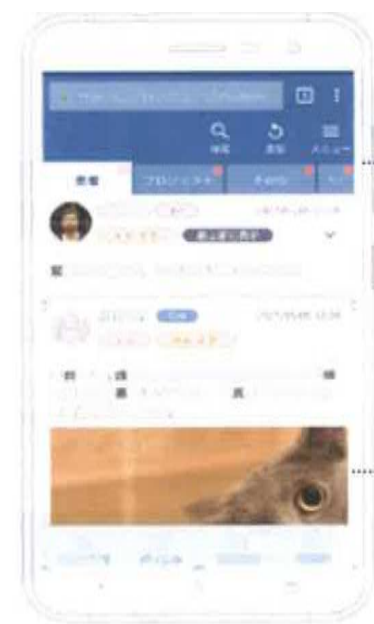
(エ) 医療と介護関係者の情報共有の支援

①情報共有ツール「こまきつながるくん連絡帳」の運営

- ・ ICTを活用した患者情報の共有など、医療・介護連携ツールとして電子@連絡帳「こまきつながるくん連絡帳」を導入。
- ・ 患者情報の共有以外に、会議の開催案内、専門職間の連携ツールとして活用を促進
- ・ 事業者からは、PC端末がなく、活用できないとの声もあり、現在は、スマートフォンにも対応

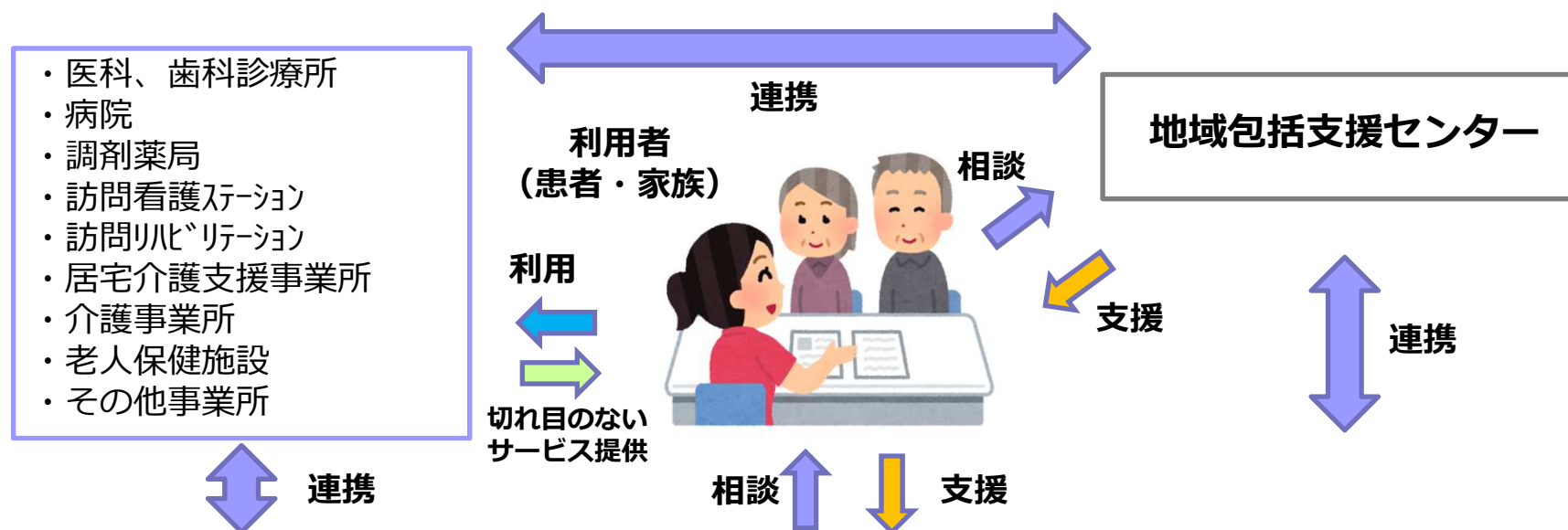
具体的な活用例

- ◆ 小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター会議
： 会議開催案内、議事録、情報共有等
- ◆ 小牧市認知症初期集中支援チーム
： 支援チームの対応状況の共有
- ◆ 地域支え合い推進員を中心とした専門機関（専門職）
： サロン定期巡回の相談対応等の共有
- ◆ こまき山劇団（在宅医療・介護 市民講演会）
： シナリオ、講演会資料の共有、稽古開催案内等



スマホ版のイメージ

(オ) 在宅医療・介護に関する相談支援



小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター

<職員>

3名（看護師2名・事務1名）H31.3現在

<主な機能・役割>

- ・市民、医療・介護関係者等からの在宅医療・介護に関する相談対応
- ・地域包括支援センターや医療・介護関係機関との連携

⇒ 『顔の見える関係づくり』をサポートする

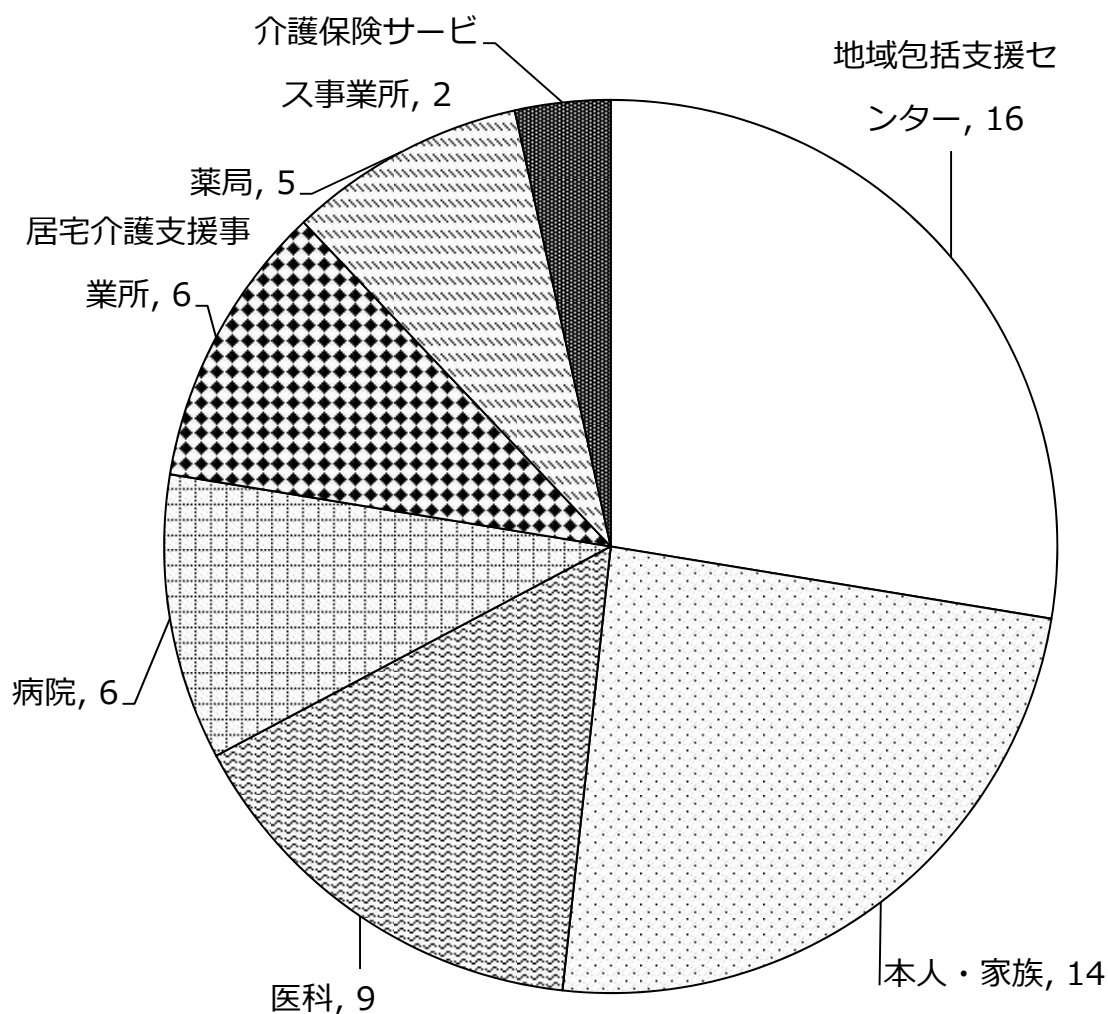
<具体的な取り組み>

- ・多職種連携研修・勉強会の開催
- ・市民啓発
- ・医療・介護関係者への相談支援、情報提供



(オ) 在宅医療・介護に関する相談支援

・平成30年度2月末までの相談件数は、58件



(力) 医療・介護関係者の研修

① 多職種連携研修会

第1回：平成30年11月8日開催：参加者120名
通所系サービスの今後をみんなで考える
～終末期の方の対応はどうしてますか？～



第2回：平成31年1月24日開催：参加者113名
摂食嚥下をとりまく環境をみんなで考える
～こんな時どんな職種がかかわりますか？～



(力) 医療・介護関係者の研修

②医療・介護勉強会 ～みんなで支える在宅療養～

第1回 H30.5.9	くらしを支えるフットケア	NPO法人予防的あしケアサポート 理事 渡邊 ひとみ氏 会員 加藤 恵美氏	37名
第2回 H30.7.24	在宅で役立つ簡単基礎知識 ～慢性呼吸器疾患患者さんを見るために～	小牧市民病院 認定看護師 堀 英孝 氏	51名
第3回 H30.10.23	地域連携にむけて（小牧ごっくんサポート） ～各専門職ができること・チームをくんでできること～	西田歯科医院 西田 泰大氏 小牧第一病院 言語聴覚士 古賀 暖氏 サントピア小牧 施設長 那須 知世氏	73名
第4回 H30.11.27	在宅で役立つ基礎知識 リハビリ編 ～リハビリテーションの基本から在宅まで～	サンエイクリニック 理学療法士 勝股 修二氏	33名
第5回 H31.1.22	認定看護師から学ぶフィジカルアセスメント ～在宅療養患者を支えるために～	小牧市民病院 脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師 杉本 篤史 氏	44名

(キ) 地域住民への普及啓発

① 専門職のサロン派遣

- ・ 歯科医、歯科衛生士： 6 回
- ・ リハビリテーション： 2 2 回
- ・ 介護福祉士 1 回



サロンでの口腔ケア講座の様子

② 市出前講座等

- ・ 膝腰スッキリ教室（リハビリテーション）： 1 0 回
- ・ わた史ノート： 1 4 回

③ 出張勉強会（小牧ごっくんサポート）

- ・ 施設： 1 回開催



こまき山体操講習の様子

④ 市広報

ケーブルテレビ（小牧市政ガイド）

- ・ 広報こまき 7 月 1 日号
- ・ 平成30年 7 月第 1 週放送

(キ) 地域住民への普及啓発

④ 認知症フォーラム

- ・平成30年9月29日開催
(来場者250名)
- ・「若年性アルツハイマーの母と生きる」
講師 岩佐 まり 氏

⑤ 在宅医療・介護 市民講演会

- ・平成31年2月16日開催
(来場者252名)
 - ・「どうしよう！おとうさんが認知症になっちゃった」
- 第1部 寸劇による事例紹介
第2部 パネルディスカッション

⑥ サロン巡回への同行

- ・社会福祉協議会事業「サロン巡回」に同行、PR（7回）
- ・サポートセンターのチラシ等（マグネット）を配布



(ク) 在宅医療・介護連携に関する市区町村との連携

① 近隣市町村センターとの情報交換会

- ・ 毎月 1 回開催
- ・ 参加者：小牧・岩倉・尾北・西名古屋の担当者・春日井及び江南保健所
- ・ 各地区サポートセンターの事業推進の共有、広域課題等の検討を実施

② 県主催の情報収集型研修に参加（市職員・サポートセンター職員）

①8月23日	・ 講義：予防と地域包括ケア ・ GW：地域包括ケアについての地域課題と解決法
②9月27日	・ 講義：認知症予防 ・ GW：在宅医療推進について
③10月25日	・ 講義：生活習慣病予防 ・ GW：在宅医療と介護の連携について
④11月22日	・ 講義：低栄養予防 ・ GW：担当部局の役割と活動について
⑤1月31日	・ 講義：介護予防 ・ GW：地域情報の収集と課題抽出、地域ケア会議について
⑥2月21日	・ 講義：肺炎予防 ・ GW：市民啓発について

③ 電子@連絡帳（ICT）の広域連携協議

- ・ 春日井市・小牧市・岩倉市の3市で定期的に連携に向けて協議する



課題と今後の展望

①在宅医療・介護に関する市民啓発

- ・相談窓口（在宅医療・介護連携サポートセンター・地域包括支援センター）の周知活動の強化
- ・小牧市の在宅医療・介護連携推進事業の見える化
- ・出前講座、PRに向けた協力体制の整備

②こまきつながるくんの利用促進

- ・研修、勉強会の開催案内など利用促進に向けた取り組みを展開
- ・「医師とケアマネ一覧」の電子化など機能強化
- ・医療・介護マップの充実化に向けた取り組み強化

③研修、勉強会の内容の充実

- ・これまでの研修、勉強会で寄せられた意見を踏まえ、テーマを選定
想定テーマ：災害、ACP

④医療・介護関係者の連携に向けた支援

- ・医療・介護関係者が具体的なケースを通して意見交換や学び合う場の設置